

県出身者の交流拠点に

仙北市出身・門脇さん

神田に集会所を開設

ウォック チング

首都圏の県出身者が気軽に集える場に。仙北市出身の門脇成英さん(56)＝埼玉県川口市、会社役員＝が、東京・神田に集会所「おーる秋田・東京ふるさと館」を開設した。各市町村のふ



るさと会や同窓会などに作業スペースなどとして使ってもらい、郷土に思いを寄せる人たちの交流拠点にしたい考えだ。

集会所はビル5階の約33平方メートルのワンルーム。25人ほどが使える机や椅子、パソコン、コピー機、テレビ、冷蔵庫などを備える。部屋、備品とも、門脇さんが私費を投じて購入した。

や資料づくりなどのスペースがあれば便利だと考えていた。しかし、「団体で施設を構えた場合、誰が責任をもって管理するかなど難しい面がある。いっそ自分で(物件を)購入し、みんなに使ってもらおう」と踏み切った。

既に東京田沢湖会や、秋田商高OB会の東京雄水会など8団体が年間の利用契約を結んだ。「利用者の声を聞きながら使いやすいように改良していきたい」と門脇さん。食べ物を持ち込んで懇親会を行うこともでき、2日に行われた開所式では、県出身者20人余りが酒を酌み交わした。

利用料は1団体当たり年間3万6500円。1日100円の計算だ。年間利用料を払っていなくても、利用者1人につき500円を払えば、半日間使うことも可能だ。「もうけようとは思っていない。人と交流することが好きだけ。維持費を払える分だけの利用料をもらえれば、長続きさせられる」と門脇さん。

東京雄水会副会長の阿部信男さん(62)＝鹿角市出身＝は「役員の打ち合わせで年6回は集まるが、安く借りられる場所を探すのに苦労してきた。これで、会の垣根を越えた交流もできる」と歓迎。県出身者を集めたシンポジウムなどを開

催することの多い首都圏秋田文化会議事務局長の武内暁さん(63)＝男鹿市出身＝も「資料の発送作業などがしやすくなる。こういう場が欲しかった」と話す。

「秋田県出身者の団体は多いが、横のつながりは希薄だった」と門脇さん。やはり私費を投じ、栃木県那須町にも県出身者らが利用できる交流施設「那須高原ふるさと館」を構えているが「今度の集会所は都内にあり、交通の便も良い。情報の交換や発信の拠点としてどんどん活用して」と多くの利用を期待している。

「おーる秋田・東京ふるさと館」は〒101-0004-1、東京都千代田区神田須田町2の2の13、ベルメゾン神田5F。問い合わせは03-6206-9423。ホームページも立ち上げた。

(小川頭)

東京
ふりーぱち